

科目名	担当者
<b>74. 在宅看護概論</b>	宮越陽子「保健師、看護師実務経験17年」

年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	前期	15	1	8	講義

目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護が必要とされる背景と基本理念が理解できる</li> <li>2. 在宅看護の対象と必要な援助が理解できる</li> <li>3. 在宅療養を支える地域包括ケアシステムが理解できる</li> <li>4. 在宅看護の機能と役割が理解できる</li> <li>5. 在宅療養者の権利保障を理解できる</li> </ol>
----	--

回数	時間	講義内容	教授方法	備考
1	2	在宅看護を学ぶ前に I 在宅看護の目的と特徴	講義	宮越
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護を学ぶにあたって</li> <li>2. 在宅看護の目的と特徴                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護の目指すもの(地域包括ケアシステム)</li> <li>2) 在宅看護における看護師の役割</li> <li>3) 在宅看護のケアニーズに応じた在宅看護の提供</li> <li>3. 在宅看護における看護師の倫理</li> </ol> </li> </ol>		
2	2	II 在宅看護の対象者	講義	宮越
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年齢からみた対象者の特徴</li> <li>2. 疾患からみた対象者の特徴</li> <li>3. 障害からみた対象者の特徴</li> <li>4. 在宅療養状態別にみた対象者の特徴</li> <li>5. 住まい方と健康</li> </ol>		
		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 家族                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護の体調者としての家族</li> <li>2) 家族のとらえ方と看護師のかかわり</li> <li>3) 家族のアセスメント</li> <li>4) 家族への支援</li> <li>5) 地域の状況から家族を支える</li> </ol> </li> </ol>	講義	宮越
3	2	III 在宅療養の支援	講義	宮越
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の提供方法</li> <li>2. 療養の場の移行                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者家族の意思決定支援と調整</li> <li>2) 退院支援・退院調整</li> <li>3) 入退院時における医療機関との連携</li> <li>3. 在宅看護の基本となるもの</li> </ol> </li> </ol>		
4	2	IV 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	講義	宮越
5	2			
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の発展経緯</li> <li>2. 在宅看護にかかわる法令・制度</li> <li>3. 介護保険制度</li> <li>4. 訪問看護の制度</li> <li>5. 訪問看護サービスの提供</li> <li>6. 地域包括ケアシステム</li> <li>7. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携</li> </ol>		
6	2	V 在宅看護の展開と特徴	講義	宮越
7	2			
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の特徴と看護過程展開のポイント</li> <li>2. 在宅看護過程の展開                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅でのアセスメントの視点</li> <li>2) 目標・計画</li> <li>3) 実施と評価</li> </ol> </li> </ol>		
		<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 在宅療養者の権利保障                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報の保護と開示 4) 成年後見 5) 虐待防止・他</li> </ol> </li> </ol>	講義	宮越
8	1	科目試験	試験	

使用テキスト : 系統感看護学講座 統合 「在宅看護論」 医学書院

評価方法 : 筆記試験

統合分野				令和2年度12期生			
科目名				担当者			
75.在宅看護方法論Ⅰ (日常生活ケア)				宮越陽子「保健師、看護師実務経験17年」 林智子「看護師実務経験28年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数	講義形態		
2	前期	30	1	15回	講義・演習		
<b>目標</b> 1. 日常生活を中心とした在宅看護援助の基本が理解できる 2. 在宅療養における特殊な技術が理解できる							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	1. 在宅看護過程	1)在宅看護過程の特徴2)情報収集とアセスメント 3)目標の設定・計画4)実施と評価			講義	宮越
2	2	2. 在宅看護介入時期別	1)在宅療養準備期2)在宅療養移行期3)在宅療養安定期 4)急性増悪期5)在宅療養終了期			講義□	宮越
3	2	3. 療養上のリスクマネジメント	1)在宅におけるおけるリスク 2)環境の安全・身体損傷の防止・薬物事故の防止・感染防止 3)在宅における災害時の対策			講義	宮越
4	2	4. コミュニケーション技術	1)在宅訪問前の準備 2)在宅訪問時のマナー 3)訪問看護時の面接の方法・技術			講義 演習	宮越
5	2	5. 認知機能のアセスメント法と援助技術	認知症サポーターになろう：認知症サポーター養成講座開催			講義	
6	2	6. 呼吸に関する援助技術	1)在宅看護における呼吸管理のケアの特徴2)呼吸に関するアセスメント3)呼吸への援助ポイント			講義	宮越
7	2	7. 栄養管理・食生活援助技術	1)在宅での食生活の特徴2)在宅での食のアセスメント 3)在宅における食の援助 在宅で起こりうる食の問題点 4)在宅における食に関する社会資源 5)食中毒の予防と発生時の対応			講義 演習	
8	2	8. 排泄に関する援助技術	1)在宅における排泄援助の特徴 2)在宅における排泄障害のアセスメント (療養者・環境・介護力のアセスメント) 3)排泄動作に困難のある人の援助 (1)ポータブルトイレでの排泄援助 4)排泄援助に関する社会資源			講義	宮越
9	2	9. 清潔・衣生活に関する援助技術	1)在宅における清潔保持の特徴とアセスメント (療養者・環境・介護力のアセスメント) 2)在宅で行う清潔援助方法の種類と実際 (入浴介助の援助) 3)在宅における衣生活の特徴とアセスメント 4)在宅における衣生活援助の実際 (片麻痺の方の衣服交換援助) 5)在宅における清潔・衣生活に関する社会資源			講義	宮越
10 11	4	8. 排泄9. 清潔援助技術	排泄動作に困難のある療養者ポータブルトイレ排泄援助 入浴動作に困難のある療養者入浴介助の援助 更衣動作に困難のある療養者の衣服交換援助			演習	宮越
12	2	10. 褥瘡ケア	1)褥瘡とは2)褥瘡の予防方法 3)褥瘡の発生原因のアセスメント 4)褥瘡創部のアセスメント5)褥瘡の治療、ケアのポイント 6)褥瘡予防、褥瘡改善のための看護計画の立案			講義	林
13	2	11. 移動移乗に関する技術	1)在宅における移動・移乗の特徴とアセスメント 3)在宅生活環境の整備 4)移乗・移動に関する社会資源と援助技術 (歩行補助具の使用法)			講義 演習	宮越
14	2	12. 家族看護技術	1)看護学に関する家族の理解 2)家族のアセスメント 3)家族支援の方法			講義	宮越
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト： 系統感看護学講座 統合「在宅看護論」医学書院 参考テキスト： 高木永子監修「看護過程に沿った対症看護」学研 認知症サポーター養成講座：上越市高齢者支援課介護指導係主催							
評価方法： 筆記試験							

#### 4) 在宅において排泄機能に障害のある人の医療技術

(1) 在宅での尿留置カテーテル管理法

(2) ストーマケア(人工肛門、人工膀胱)

統合分野				令和2年度12期生	
科目名			担当者		
76.在宅看護方法論Ⅱ (医療的ケアの技術・状態別看護)			宮越陽子「保健師、看護師17年」 星野めぐみ「看護師21年」 武田一久「看護師35年」 小山詩織「看護師6年」		
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	後期	30	1	15	講義・演習・GW
目標 1. 在宅療養者の症状・状態別看護が理解できる 2. 在宅療養者の家族への援助が理解できる					
回数	講義内容			教授方法	備考
1	2	1. 在宅看護過程	1)在宅看護過程の特徴2)情報収集とアセスメント3)目標の設定と計画4)実施と評価	講義	宮越
2	2	2. 在宅中心静脈栄養法・経管栄養法の援助技術	1. 在宅中心静脈栄養法および経鼻経管栄養法 2. 栄養法に関する看護援助と合併症予防 3. 生活の工夫(介護者に向けた指導)	講義 演習	宮越
3	2	3. 排泄機能に障害のある療養者の看護技術	在宅におけるストーマ・尿道留置カテーテルの援助技術	講義 演習	宮越
4	2	4. 非侵襲的陽圧換気療法の援助技術	1. 非侵襲的陽圧換気療法2. 非侵襲的陽圧換気療法の適応条件3. 非侵襲的陽圧換気療法への在宅看護	講義	宮越
5	2	5. 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の援助技術	1. 在宅酸素療法(HOT)・2. 在宅人工呼吸器療法の看護 HOT・HMVの目的、適応基準、使用機器の種類と管理法・看護社会資源	講義	宮越
6	2	6. 在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法の演習	在宅医療機器メーカーによる医療機器の体験学習	講義 演習	宮越
7	2	7. 腹膜透析患者の在宅看護	1)CAPDとは 2)CAPD時の生活の特徴と看護	講義	武田
8	2	8. 難病患者の在宅看護	1)在宅における難病患者の理解 難病の定義、難病対策要綱、難病患者の課題(ALS療養者事例)	講義	小山
9	2		3)在宅で療養する難病患者の看護 実際の療養者の状態と看護方法 在宅ケアチームの情報交換・連携等	講義	小山
10	2	9. 統合失調症の療養者に対する在宅看護	統合失調症の療養者の在宅看護の事例展開	講義	宮越
11	2	10. 在宅における終末期(がん)の看護(外来がん治療の支援と疼痛緩和ケア)	1. 在宅における終末期(がん)看護の特徴(定義、条件) 2. 在宅ターミナルにおける症状コントロール 3. 在宅終末期看護の展開および疼痛緩和 1)在宅移行時の看護 2)終末期前期の看護 3)終末期中期の看護 4)終末期後期の看護 (臨死期の観察、看取りケア、死の準備教育、グリーフケア) 4. 家族支援の基本姿勢 5. 在宅ターミナルにおけるチームケア	講義	星野
12	2				
13	2	11. 在宅で療養する子どもへの看護	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 1)在宅療養小児の特徴 2)在宅身体障害児の身体症状 2. 在宅で療養生活する小児に対する基本的な看護 1)療養者と家族の発達のアセスメント 2)発達に応じた対応 3)合併症の予防 3. 家族支援のポイント 4. 在宅療養児をめぐる社会資源、ネットワークづくり 1)社会資源の活用 2)地域ネットワーク 3)現状の問題点	講義 GW	
14	2				
15	2	科目試験		試験	
使用テキスト: 系統感看護学講座「統合 在宅看護論」 参考テキスト: 高木永子監修「看護過程に沿った対症看護」学研					
評価方法 : 筆記試験					

統合分野				令和2年度12期生	
科目名				担当者	
77.在宅看護方法論Ⅲ (問題解決の技術)				宮越 陽子「保健師、看護師17年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	後期	15	1	8	講義・演習
到達 1. 生活の場を理解した看護過程の展開ができる 2. QOLの向上及び健康の保持・増進が理解できる					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	1. 在宅看護過程の展開の特徴	1-1. 在宅看護過程の展開の特徴 1-2. 在宅看護におけるアセスメントの視点 1) 在宅看護に関係する書類 2) 情報収集の方法、情報源、注意点 3) アセスメントの視点 4) 家族負担に関するアセスメント方法	講義	宮越
2	2	2. 紙上事例による看護過程の実際	2. 紙上事例の看護展開 1) 療養者の情報の整理・解釈・分析	演習	宮越
3	2	2. 紙上事例による看護過程の実際	2. 紙上事例の看護展開 1) 療養者・家族の情報の整理・解釈・分析 2) 全体像の描写と看護問題の明確化	演習	宮越
4	2	1. 在宅看護過程の展開の特徴 2. 紙上事例による看護過程の実際	1-3. 在宅における看護計画 1) セルフケア能力を引き出す計画 2) ケアマネジメントと訪問看護 3) 在宅看護における家族支援 (介入の特徴、目的、基本姿勢、実際)	講義・演習	宮越
5	2	2. 紙上事例による看護過程の実際	2. 紙上事例の看護展開 1) 療養者・家族の情報の整理・解釈・分析 2) 全体像の描写と看護問題の明確化	演習	宮越
6	2	2. 紙上事例による看護過程の実際		演習	宮越
7	2	学習のまとめ	グループ内発表 グループの中での相違とそれぞれの考えを発表し グループ間で理解する	GW	宮越
8	2	科目試験		試験・記録物	
使用テキスト : 系統看護学講座 統合「在宅看護論」医学書院					
評価方法 : 筆記試験(50) 看護過程演習(50)					

統合分野				令和2年度(11期生)	
科目名			担当者		
78.看護の統合と実践Ⅰ (看護管理・安全管理・災害看護・国際看護)			小野塚久美子「看護師38年」 相馬和則「看護師16年」 山崎達枝「看護師33年」 加固正子「看護師」		
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
3	後期	30	1	15	講義
目標:	1. 組織の中での看護管理について理解できる。 2. 医療における安全管理の必要性が理解できる 3. 災害医療・看護の必要性が理解できる 4. 国際協力の必要性や意義を認識し、これからの展望について考えることができる				
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	看護とマネジメント	1)看護管理学とは 2)マネジメントとは 3)看護におけるマネジメント	講義	小野塚
2	2	看護ケアとマネジメント	1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重 3)チーム医療における看護師の役割 4)他職種連携 5)看護業務の実践	講義	小野塚
3	2	看護サービスとマネジメント	1)看護サービスの対象と範囲 2)看護の組織化の理解 3)看護サービス提供のしくみづくり	講義	小野塚
4	2	看護を取り巻く諸制度 マネジメントにおける必要な 知識・技術	1)看護職と法制度 2)看護教育制度及び継続教育とマネジメント 3)組織構造と組織の原則 4)組織の調整	講義	小野塚
5	2	医療安全の基本的な考え方	1)なぜ医療安全を学ぶのか 2)医療安全の考えの変化 3)医療安全に関する用語の理解	講義	小野塚
6	2	医療事故対策について	1)事例に学ぶ医療事故 2)対象の安全確保の理解	講義・DVD	小野塚
7	2	組織で取り組む医療安全	1)医療機関における医療安全体制 2)安全管理プロセスの理解 3)内部報告制度 4)院内感染対策	講義	小野塚
8	2	事例から学ぶ医療安全	1)KYTを体験しよう 2)起きた後の対策を考える	DVD・GW	小野塚
9	2	災害看護について	DMATの活動を紹介	講義	相馬
10	2	災害看護について	1)災害看護の歩みの理解 2)災害医療・災害看護の基礎知識の理解	講義	山崎
11	2	災害看護について	3)災害サイクルに応じた災害看護の理解 4)こころのケア	講義	山崎
12	2	災害看護について	5)救護所の設置	講義・演習	山崎
13	2	国際協力のしくみ	1)国際看護を学ぶ意義 2)グローバルヘルス	講義	加固
14	2	看護における国際化の状況	1)国際協力のしくみ 2)異(多)文化を考慮した看護	講義	加固
15	2	科目試験		試験	
使用テキスト 看護管理・災害看護・国際看護 医学書院 参考資料・資料 医療安全ワークブック 医学書院					
評価方法 : 筆記試験					

統合分野				令和2年度(12期生)	
科目名			担当者		
79.看護の統合と実践Ⅱ (複数事例)			船岡未恵「看護師14年」 横澤亜希子「助産師、看護師25年」 星野めぐみ「看護師21年」 佐々木保子「看護師7年」		
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
2	後期	30	1	15	講義・演習
<b>目標</b> 1. 既習の知識、技術を統合し、複数対象者の状態に応じた看護実践ができる能力を養う 1) 複数の事例をアセスメントし、看護診断、看護計画の立案ができる。 2) 看護計画に沿って必要な生活を支える援助を抽出することができる 3) 優先度に基づいて看護の実践ができる。 4) 看護実践を振り返り評価し、自己の課題を明確にすることができる。					
回数	時間	講義内容		教授方法	備考
1	2	科目の目的	1) 科目の目標、学習方法、学習課題の説明 2) 看護実践と医療安全 3) 優先順位の考え方 4) 紙上2事例の考え方 成人患者(終末期)、老年患者	講義	船岡 星野
2	2	複数患者の把握	1) ロールプレーの内容と場面の把握 2) 複数患者に必要な援助の把握	講義	船岡 星野
3	2	紙上事例の 情報の整理とアセスメント	1) 各事例の情報の整理 2) 各事例に必要な項目のアセスメント	個人W	船岡 星野
4	2				
5	2	紙上事例の 情報の整理とアセスメント	1) グループワークで各事例の情報の整理 2) グループワークで各事例に必要な項目のアセスメント	GW	横澤 佐々木
6	2	各事例の 関連図・看護問題	1) グループワークで各事例の看護問題の検討 2) グループワークで各事例の優先順位の検討	GW	横澤 佐々木
7	2	各事例の看護計画	1) グループワークで各事例の看護計画	GW	横澤 佐々木
8	2				
9	2	援助計画の立案	1) グループワークで複数患者に必要な援助の把握 2) 複数患者の援助計画書作成 (1) 個別性・安全性を考慮した優先順位 (2) 援助計画書・シナリオ作成	GW	横澤 佐々木
10	2				
11	2	ロールプレーイング	ロールプレーイング(2事例を1つの場面で援助する)	実技試験	横澤 佐々木
12	2				
13	2				
14	2	ロールプレーイングの 振り返り	1) ロールプレーイングを振り返り優先順位を再度検討 2) 振り返りをもとに今後の看護実践での自己課題	GW	横澤 佐々木
15	2	科目試験		試験	
病態治療学 看護過程を使ったヘンダーソン理論 HIROKAWA					
<b>評価方法：</b> 提出物 アセスメント・関連図・看護診断・看護計画・援助計画(55) ロールプレーイングでの看護実践(15) GWレポート(10) 自己の課題のレポート(10) 終講試験(10)					

統合分野				令和2年度(11期生)			
科目名							
80.看護の統合と実践Ⅲ (優先順位)				渡部恵利香「看護師実務経験8年」 宮越陽子「保健師、看護師実務経験17年」 岡村ひろみ「看護師実務経験33年」 深川悟「看護師実務経験33年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態		
3	後期	30	1	15	講義・演習		
<b>目標</b> 1. 事例(受け持ち患者ABC)を通してリスクマネジメント課題・倫理的課題が理解できる 2. 多重課題を通して知識、技術を統合し、対象に適切な看護を実践する能力を養う 3. メンバーシップ・リーダーシップが理解できる							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	科目の目的	1)科目の目標、学習方法、学習課題の説明 2)看護実践と倫理 3)看護実践と医療安全 4)優先順位の考え方 5)リーダーシップ、メンバーシップとは 6)申し送り・引き継ぎの必要性と方法			講義	渡部
2	2	3事例(A B Cの事例) の把握	1)A・B・Cの3事例のリスク分析・倫理的配慮の考え方 (1)解剖・生理 (2)疾患の病態 (3)治療概要 (4)使用薬剤の作用・副作用 (5)検査内容 (6)一般的な成長・発達課題			講義 演習 個人W	渡部
3	2	事例のアセスメント	1)各事例の基礎情報の整理			講義 演習 個人W	渡部 岡村
4	2		2)重要度・緊急度からの各事例アセスメント				
5	2	事例の優先順位の判定と タイムマネジメントを計画	1)各事例の重要度・緊急度から優先順位を判定 2)複数患者に必要な援助の把握			演習 GW	渡部 岡村
6	2	多重課題の整理 関連情報の収集	1)各事例の看護計画			演習 GW 個人W	渡部 岡村
7	2		2)ロールプレーの内容と場面の把握 3)1)、2)を踏まえてタイムマネジメントを計画				
8	2	援助計画書とロールプレー イングのシナリオ作成	1)複数患者と多重課題の援助計画書作成 2)リーダーシップ、メンバーシップの役割を考えたシナリオ 作成			演習 GW	宮越 深川
9	2						
10	2	ロールプレーイング	グループごとにロールプレーイング発表			演習	宮越 深川
11	2						
12	2						
13	2						
14	2	ロールプレーイングの 振り返り	1)ロールプレーイングを振り返り優先順位を再度検討 2)振り返りをもとに今後の看護実践での自己課題			演習	宮越 深川
15	2	科目試験				試験	
使用テキスト	成人看護学総論 医学書院 内分泌・代謝 医学書院 今までの自己の学習内容・テキスト・講義資料、実習資料、調べ学習内容						
評価方法:	提出物:アセスメント(5)・看護計画(15)・タイムマネジメント(15) 援助計画書・ロールプレーイングでの看護実践(50)・終講試験(15)						



統合分野				令和2年(11期生)			
科目名				担当者			
81.看護の統合と実践Ⅳ (看護研究)				鳥越千穂「看護師実務経験25年」			
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態		
3	全通	30	1	15	講義・演習		
<b>目標</b> 1. 看護研究とは何かを学び、看護実践における意義と目的が理解できる 2. ケーススタディと							
回数	時間	講義内容			教授方法	備考	
1	2	研究の種類基本的知識	1)看護研究とは 2)専門職と看護研究 3)看護研究と倫理的配慮 4)研究テーマの発見の仕方			講義	
2	2	ケーススタディの基本的知識	1)ケーススタディとは 2)ケーススタディの目的・意義			講義 演習	
3	2	研究(ケーススタディ)の種類	1)実験研究 2)調査研究 4)文献検索 3)質的研究(事例研究)			講義	
4	2	ケーススタディの実際	テーマを確定し計画書の作成をする			講義	
5	2		演習(計画書のまとめ) 教員による個別指導			講義 演習	
6	2		演習(計画書のまとめ) 教員による個別指導			演習	
7	2		演習(事例のまとめ) 教員による個別指導			演習	
8	2		演習(事例のまとめ) 教員による個別指導			演習	
9	2		演習(個別指導)受け持ち担当教員による			演習	
10	2		学会参加(11月末)	学会参加			講義
11	2	論文提出 (令和2年末)	論文構成に従ってまとめる			演習	
12	2	論文作成	論文構成に従ってまとめる(個別指導)			演習	
13	2		論文構成に従ってまとめる(個別指導)			演習	
14	2	ポスターセッション	発表			演習	
15	2					演習	
使用テキスト・参考資料・資料							
<b>評価方法</b> : 論文評価 (最終提出期限を守らない場合は評価対象にならない) 学会参加・及び学びレポート 研究計画書と論文の提出							

統合分野					
科目名				担当者	
82.在宅看護論実習				宮越陽子「保健師、看護師実務経験17年」	
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態
3	前期	90	2		実習
<p>目的: 在宅で療養生活している対象者とその人を取り巻く家族及び地域についての理解を深め、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う</p>					
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者・家族の生活価値観・信念を尊重し信頼関係を築くことの必要性が理解できる</li> <li>2. 地域で療養している対象者・家族の生活を知ることができる</li> <li>3. 在宅療養者とその家族のセルフケア能力を支える支援計画が理解できる</li> <li>4. 在宅療養者とその家族のケアニーズに応じた援助と指導を実施することができる</li> <li>5. 実践場面を通して、倫理原則を意識し判断する能力を養うことができる</li> <li>6. 在宅療養を支えるシステムを理解し関係職種の役割と連携の重要性が理解できる</li> <li>7. 専門職業人として常に自己研鑽していく姿勢を持つことができる</li> </ol>					
項目		内容			備考
実習時間		8:20～16:50			
実習構成		臨地実習			
実習施設		<p>上越市医師会訪問看護ステーション</p> <p>訪問看護ステーションけいなん</p> <p>医療法人知命堂病院訪問看護ステーション</p> <p>訪問看護ステーションリポーン</p> <p>訪問看護ステーションみのり</p> <p>訪問看護ステーションココロ上越高田駅前</p> <p>上越市内地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・ディケア</p>			
<p>使用テキスト・参考資料・資料</p> <p>講義で使用したテキストを参考にする</p> <p>詳細は実習要項を参照する</p>					
<p>評価方法</p> <p>実習評価表に基づいて行う</p>					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野	令和2年度(11期生)	
科目名				担当者		
83.看護の統合と実践実習				渡部恵利香「看護師実務経験8年」		
年次	時期	時間数	単位	講義回数	授業形態	
3	後期	90	2		実習	
目的:	看護チームの一員として看護実践を体験することによりチームにおける看護師の役割と看護の実際を理解する					
目標:	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護チームにおけるチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解する</li> <li>2. 看護師の受け持ち患者の状態がわかり、援助の根拠を理解する</li> <li>3. 看護師について複数患者の看護を見学し、優先順位と時間管理を考慮して業務する必要性を理解する</li> <li>4. 夜間における看護師の役割を理解する</li> <li>5. 病棟管理・看護管理について理解する</li> <li>6. 統合看護実習を振り返り看護職に向けての自己の方向性を見出し、課題を明確にする</li> </ol>					
項目	内容				備考	
実習時間	8:30~17:00 8:30~17:30	8:30~18:00 11:00~19:30				
実習構成	臨地実習					
実習施設	新潟県立 柿崎病院 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会糸魚川総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会けいなん総合病院 上越地域医療センター病院 独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院 新潟県立中央病院 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 新潟県立松代病院					
使用テキスト・参考資料・資料 講義で使用した資料 詳細は実習要項を参照する						
評価方法 実習評価表に基づく						